

健康社会医学

1 構成員

	平成18年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（0人）
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	7人

2 教員の異動状況

青木 伸雄（教授）（H元. 11. 1～H18. 3. 31）

村田千代栄（助手）（H17. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	16編（6編）
そのインパクトファクターの合計	27.89
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Murata C, Kondo T, Hori Y, Miyao D, Tamakoshi K, Yatsuya H, Sakakibara H, Toyoshima H: Effects of social relationships on mortality among the elderly in a Japanese rural area: an 88-month follow-up study. Journal of Epidemiology, 15: 78-84, 2005

2. 村田千代栄, 近藤高明, 玉腰浩司, 八谷 寛: 高齢者の医療費支出と, その後の日常生活自立度, および生命予後との関連, ユニバーサル財団助成論文集, 2005, 11
3. Murata C, Kondo T, Tamakoshi K, Yatsuya H, Toyoshima H: Determinants of self-rated health: Could health status explain the association between self-rated health and mortality? Archives of Gerontology and Geriatrics, Mar 10 [Epub ahead of print], 2006
インパクトファクターの小計 [2.01]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Nakamura M, Sugiura M, Aoki N: High β -carotene and β -cryptoxanthin are associated with low pulse wave velocity. Atherosclerosis 184: 363-369,2006
2. Fukino Y, Shinbo M, Aoki N, Okubo T, Iso H: Randomized Controlled Trial for an Effect of Green Tea Consumption on Insulin Resistance and Inflammation Markers. J Nutr Sci Vitaminol 51: 335-342,2005
3. Feigin V, Parag V, Lawes CMM, Rodgers A, Suh I, Woodward M, Jamrozik K, Ueshima H and on behalf of the Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (Feigin V, Aoki N, et al): Smoking and elevated blood pressure are the most important risk factors for subarachnoid hemorrhage in the Asia-Pacific Region: an overview of 26 cohorts involving 306,620 participants. Stroke 36(7): 1360-1365,2005
4. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (Barzi F, Aoki N, et al): A Comparison of Lipid Variables as Predictors of Cardiovascular Disease in the Asia Pacific Region. Ann Epidemiol 15(5): 405-413,2005
5. Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (Woodward M, Aoki N, et al): Smoking, quitting, and the risk of cardiovascular disease among women and men in the Asia-Pacific region. Int J Epidemiol 34(5): 1036-1045,2005
6. Mabuchi T, Yatsuya H, Tamakoshi K, Otsuka R, Nagasawa N, Zhang H, Murata C, Wada K, Ishikawa M, Hori Y, Kondo T, Hashimoto S, Toyoshima H: Association between serum leptin concentration and white blood cell count in middle-aged Japanese men and women. Diabetes/ Metabolism Research and Reviews, 21: 441-7, 2005
7. Wada K, Tamakoshi K, Tsunekawa T, Otsuka R, Zhang H, Murata C, Nagasawa N, Matsushita K, Sugiura K, Yatsuya H, Toyoshima H: Validity of self-reported height and weight in a Japanese workplace population. International Journal of Obesity, 29: 1093-9, 2005
8. 大塚 礼, 豊嶋英明, 八谷 寛, 張 恵明, 和田恵子, 村田千代栄, 堀 容子, 近藤高明, 玉腰浩司: 職域コホート男性における血清レプチン濃度と生活習慣との関連. 日本循環器病予防学会誌, 40: 123-30, 2005
9. 竹田徳則, 近藤克則, 平井 寛, 斎藤嘉孝, 吉井清子, 村田千代栄, 松田亮三: 日本の高齢者—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査-5 地域在住高齢者の趣味活動と社会経済的地位, 公衆衛生, 69: 62-6, 2005
10. 斎藤嘉孝, 近藤克則, 吉井清子, 平井 寛, 末 盛慶, 村田千代栄: 日本の高齢者—介護予

防に向けた社会疫学的大規模調査-8 高齢者の健康とソーシャルサポート—受領サポートと提供サポート, 公衆衛生, 69: 661-5, 2005

11. 吉井清子, 近藤克則, 平井 寛, 松田亮三, 斎藤嘉孝, 村田千代栄: 日本の高齢者—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査-10 ストレス対処能力SOCと社会経済的地位と心身健康: 公衆衛生, 69: 825-9, 2005
12. 市田行信, 吉川郷主, 松田亮三, 近藤克則, 平井 寛, 斎藤嘉孝, 村田千代栄, 竹田徳則, 石井加代子, 中出美代: 日本の高齢者—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査-11 ソーシャルキャピタルと健康, 公衆衛生, 69: 914-9, 2005
13. Wada K, Tamakoshi K, Yatsuya H, Otsuka R, Murata C, Zhang H, Takefuji S, Matsushita K, Sugiura K, Toyoshima H: Association between parental histories of hypertension, diabetes and dyslipidemia and the clustering of these disorders in offspring, Preventive Medicine, Feb 27 [Epub ahead of print], 2006

インパクトファクターの小計 [25.88]

(3) 総 説

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中村美詠子, 青木伸雄: 突発性難聴と生活習慣. ENTONI 54: 1-6, 2005

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件

(5) 学会役員等回数	0件	6件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

Murata C, Yatsuya H, Tamakoshi K, Otsuka R, Wada K, Aoki N, Toyoshima H. Factors associated with insomnia among male civil servants in Japan. XVIIth World Congress of Epidemiology, Bangkok (Thailand) August 21-25, 2005

(2) 国内学会の開催・参加

5) 口頭発表

大塚 礼, 玉腰浩司, 八谷 寛, 和田恵子, 松下邦洋, 杉浦嘉一郎, 松下邦洋, 竹藤聖子, 歐陽はい, 張 恵明, 村田千代栄, 豊嶋英明. 食べる速さと現在のBMI, 20歳からのBMI変化量との関連. 第40回日本循環器管理研究協議会総会・日本循環器病予防学会(横浜) 2005年5月27日

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

青木伸雄 日本循環器管理研究協議会監事

青木伸雄 日本公衆衛生学会編集委員

青木伸雄 日本衛生学会評議員

青木伸雄 日本疫学会評議員

青木伸雄 日本栄養改善学会評議員

青木伸雄 東海公衆衛生学会理事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	5件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

緑茶ポリフェノールに関する無作為化比較対照試験(RCT): 緑茶ポリフェノールが血清脂質に及ぼす影響を明らかにすることを目的としたRCT。平成16年度より継続中。共同研究者: 国立長寿医療センター研究所中村美詠子, 愛知厚生連渥美病院健康管理センター中神未季。

睡眠時間と目覚め、自覚症状に関する検討 — 静岡県子ども生活実態調査。共同研究者：国立長寿医療センター研究所中村美詠子，浜松大学健康プロデュース学部近藤今子等。

突発性難聴に関する症例対照研究：突発性難聴と生活習慣（食生活，飲酒，睡眠，疲労，ストレス等）との関連を明らかにすることを目的とした研究。共同研究者：国立長寿医療センター研究所中村美詠子，浜松医科大学耳鼻咽喉科学岩崎聡。

職域コホート追跡研究：愛知県職員を対象にした生活習慣病の発症予防に関する縦断研究。1999年より継続中。研究代表：名古屋大学医学部公衆衛生学教授豊嶋英明。

AGES（愛知老年学的評価研究）：地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究。1999年より継続中。研究代表：日本福祉大学社会福祉学部教授近藤克則。

10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 高齢者の健康に関わる心理社会要因についての研究

日常生活動作（移動，排泄，入浴）に介助を要しない農村地域在住の高齢者1994名（女性58.1%）を7年3ヶ月間追跡した研究により，社会関係（気楽な友人・困った時の相談相手・地域団体への参加・就業）を持たない高齢者は，死亡リスクが高いことを確認した。その関連は，特に後期高齢者（75歳以上），および男性において顕著であった。また，特に後期高齢女性では，独居の方が，年齢，健康状態，社会関係を考慮しても，死亡リスクが低いことが確認された。また，2490名の地域在住高齢者を対象に，主観的健康観（自分の健康状態をどうみなしているか）に関連する要因を検討した。年齢，身体機能，社会関係に加え，家庭での孤立や生きがいなど心理的要因が主観的健康観に関連していた。疾患と身体機能は，主観的健康観の35-40%を説明しているに過ぎず，高齢者の健康観は，身体的健康度のみでは説明できないことが示唆された。

（村田千代栄，名古屋大学医学部公衆衛生学教室）

2. 生活習慣病予防に関するコホート縦断研究

名古屋大学公衆衛生学教室で進めている職域コホート縦断研究に当教室も関わっている。2002年に行われた40-59歳の愛知県職員3082人を対象に，血中レプチン濃度と白血球数との関連を検討した。その結果，白血球数が多いとレプチン濃度も高いことが確認され，肥満者で白血球数が多いのは，肥満細胞から生成されるレプチン濃度が高いためである可能性が示唆された。また，食べるスピードが速いと太りやすいことも確認された。現在は，不眠と職業性ストレスの関連についての検討を加えている。結果の一部は，国際疫学会で発表した。

（村田千代栄，名古屋大学医学部公衆衛生学教室）

3. 高齢者の介護予防に向けたコホート縦断研究

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めているAGES (Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究) プロジェクトに、当教室も関わっている。本研究は1999年に愛知県の2自治体で始まり、2003年には、3県15自治体における一般高齢者3万人の大規模コホートとなった。2006年秋には3回目のアンケート調査を実施予定。自記式アンケート結果と自治体の要介護認定データとリンクすることで、自立高齢者を追跡し、要介護および認知症発症など健康寿命喪失に関わる要因を探ることを目的とする。研究結果の一部は「公衆衛生」誌に1年間にわたり掲載された。所得、教育など健康格差が健康に与える影響に着目した当研究は、マスコミからも注目され、複数回報道されている（「健康格差」広がる恐れ [朝日新聞] 2005.10.20付、健康格差社会この現実を直視することから [赤旗] 2005.12.4付、「所得格差」が「健康格差」を生む社会の問題を鋭く指摘 [民医連新聞] 2006.2.6付など）。

(村田千代栄, 日本福祉大学COE推進室)

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 働き盛りの中高年を対象にしたコホート縦断研究は、各種生活習慣病の発生に関わる要因について、生活習慣、ストレス、身体活動などについてのアンケート結果、健診データ、血清データ、食品頻度調査、疾患の家族歴、個人の病歴データを元に、多面的な方向から、生活習慣病発生に関わる要因についての検討を行っている。1999年と2002年のデータが蓄積され、現在も進行中である。

2. AGESプロジェクトは、公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また、所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者3万人を対象にしたコホート研究は、国内外でも稀少であり、韓国、スウェーデン、アメリカの大学との比較共同研究の話も進んでいる。この研究は、根拠に基づく介護予防政策立案に向け、基礎的データの提示を目標としているが、政策に直結するような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ、研究の継続性、政策への応用性が見込まれる。